

中小学校だより

November 28th. 2019 No. 8

「中フェス」での素敵な姿

11月12日に「中フェス」がありました。6年生が企画・運営・準備をした遊びを体育館・遊具・運動場の3つのエリアを回りながらなかよし班で遊ぶものです。当日は、少し風が強かったものの、とても日差しが暖かく、素敵な「中フェス」日和となりました。

執行委員の司会・進行による開会式のあと、なかよし班ごとにかたまっておにぎり弁当を食べました。朝早く起きて、おうちの方と一緒におにぎりづくりに励んだ子ども達は、あふれんばかりの笑顔でまたたく間におにぎりを食べていました。家庭教育学級の取り組みの「おにぎりづくりにチャレンジ」も兼ねていて、各ご家庭で早朝よりご準備いただけたことを感じました。ありがとうございました。

おにぎりを食べ終わったあとは、いよいよ遊びです。運動場では「8の字跳び」を、体育館では「ペットボトルボーリング」や「コーンキャッチボール」を、そして遊具でも遊びました。

体育館の「ペットボトルボーリング」では、なかよし班の6年生以外のメンバーがボールを転がして倒したペットボトルのピンを何度も何度も並べ直していました。「〇本倒れた!」と大喜びの声が響く中、やさしい笑顔で並べ続けた6年生のリーダーは、どんな思いだったのでしょうか。きっと、仲間が楽しんでくれる様子を見て、嬉しかったのではないのでしょうか。運動場での「8の字跳び」の時も、6年生リーダーが縄の回し手となり、6年生以外の仲間達が楽しそうに跳んでいました。ひっかかった仲間には「惜しい!もうちょっと!」と励ましの声をかけ、1年生の仲間にはとてもゆっくり縄を回してあげる心温かい姿に、最上級生としての成長と同時に頼もしさを感じました。自分が楽しむことも大切です。でも、自分は「縁の下の力持ち」の役に徹して、仲間が楽しむ様子に満足できることができるのは、さすが6年生だと思いました。



PTCでおうちの方と一緒に頑張りました

<略>・・・自分が高齢者の疑似体験をすると、予想以上に動きづらかったり音が聞きづらかったりしました。自分のうちでは、(高齢の方はいないので)学んだことを直接いかせないけれど、今度の「中小サロン」では、やさしくゆっくりと説明したり、少し待ってあげたりしないといけないと思いました。

毎年恒例となったPTC活動では、それぞれの学年が生活科・総合的な学習の時間「ふなき」で学習してきたことを、おうちの方と一緒に取り組みました。11月14日に瑞穂市社会福祉協議会のスタッフの方々と車椅子体験を行った6年生は、高齢者疑似体験に取り組みました。高齢者の方は、どんなことに困り感をもっているのかを、自らいろいろな装置を付けて疑似体験しました。普段なら何の苦労もなく歩けるところも、装置を付けると途端に視野が狭くなり、体の動きもぎこちなくなります。「段差があるよ。」「気を付けて。」と声をかけ介助することの大切さを体感しました。5年生は、米づくりでお世話になった地域講師の方をお呼びして、自分達で作った塩おすびと〇〇をいただきました。「お世話くださってありがとう。」「ご招待してくれてありがとう。」「こんな感謝のやりとりが感じられる素敵な会でした。5年生の書いたお礼の手紙に「この手紙はかけがえのない私の宝物です。」と言ってくださった言葉が心に残りました。4年生は「未来の森」の方を講師に招きガラス工芸に、3年生は地域講師の方を招き「柿ジャムづくり」に取り組みました。どちらも総合的な学習



「ふなき」や社会科で学習した3Rや地場産業に関わる体験活動でした。

1年生と2年生は、生活科の「昔の遊び」で楽しみました。活動の終わりに先生の伴奏と指揮で歌った「スマイル アゲイン」もとてもすてきてでした。1年生は、PTC活動を終えた11月26日にも瑞穂大学能力活性学部のメンバーの方とも和やかに交流しました。

中小学校では、このような値打ちのある活動を、子ども達の手で少しずつレベルアップを図りながら継続することで、新たな伝統が紡がれています。